

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	小城市立三日月中学校					
1 前年度 評価結果の概要	・家庭学習への取り組み方を再考する必要がある。(課題の出し方、習慣づけ等) ・ICTの活用が昨年度と比較して大幅に向上した。今後も業務のスリム化及び効果的な授業展開にICTを活用していきたい。 ・業務改善・働き方改革に関して来年度さらに一歩踏み込んだ対策が必要である。					
2 学校教育目標	志をもち、主体的に挑戦し、未来を切り拓く生徒の育成 ～夢・挑戦・協働三中～					
3 本年度の重点目標	・個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善と家庭学習の定着 ・「認めて、ほめる」文化を基盤にした自己肯定感・自己有用感を育む生徒指導の充実 ・業務改善に向けた教職員の意識改革の推進					
4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価					
(1)共通評価項目						
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	主な担当者
●学力の向上	○全職員が「授業改善プランシート」を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に展開する授業改善の推進	○生徒アンケート「授業がわかる(肯定的な回答)」の割合が90%以上。 ○職員アンケート「個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業実施」の自己評価における肯定率が90%以上。	・「授業改善プランシート」を基にしたPDCAサイクルの確立(学期ごとの改善状況確認)。 ・相互授業参観の定期実施と、リフレクションを通じた授業スキルの共有。			学力向上担当 研究主任 教務主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の時間は、自己の成長に役立つと思える生徒の割合を80%以上。 ○他者への思いやりをもって行動することができる生徒80%以上。	・学年職員全員で道徳授業を行い、道徳教育の充実に取り組む。また、対話型授業を行う。 ・「ココロノート」を活用し、自己の成長を確認させる。 ・三中タイムを定期的に実施し、コミュニケーションスキルの向上や生徒同士のつながりを深めるようなグループワークを行う。			生徒指導主事 教育相談担当 道徳教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が80%を上回る。	・生徒欠席時(連絡なし、理由が不確かな場合)の1日目連絡、2日目家庭訪問の実施を徹底する。 ・毎月いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。それに加えて、毎朝、タブレットでの健康観察を行い、生徒の心身の状態を全職員で共有を図る。			生徒指導主事 教育相談担当
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上。	・学校行事だけでなく、授業などでも生徒の得意や役割の機会を設定する。 ・日頃の教育活動全般を通じて、「認めて、ほめる」関わり方を行う。 ・生徒の自己の成長や将来の夢につながるため、輪番で教職員が「心の講話」を行う。			生徒指導主事 育友会担当
	○情報モラル教育の充実	○SNSの特徴を理解し、正しい使い方ができていると回答する生徒90%以上。	・講師を招聘した情報モラル講座を年間2回実施。毎月末に情報モラル教室(三三三タイム)を活用して実施。			生徒指導主事 情報教育担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康は何より大切だ」保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒80%以上。 ●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上。	・保健部とタイアップして健康に対する月目標の達成、それに対する自己の評価をし、PDCAサイクルができるようにする。 ・食育の大切さについて考える授業を実施し、生徒会と連携した取り組みを推進する。			保健主任 食育担当 保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・部活動時間、休業日を厳守する。 ・部活動終了後1時間以内の退勤を促進する。 ・1日単位での年次取得を促進する。 ・校務の効率化、スリム化を図る。			管理職 教務主任 部活動担当
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の専門性向上と校内支援体制の強化	○支援が必要な生徒に対して、チームで取り組むことができた回答する職員の割合を80%以上にする。	・特別支援部会の時間割内位置づけと職員研修の充実。			特支コーディネーター 道徳指導教員担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	主な担当者
○生徒会、実行委員会を中核とした生徒主体の学校づくりの推進	○学校行事における企画・運営の充実 ○約束事検討委員会における校則の見直しと改善	○「生徒会活動や学校行事、ボランティアなどの活動に積極的に取り組んだ」と答えた生徒70%以上。	・生徒会中心の実行委員会を重視し、運営をサポートする。 ・約束事検討委員会の拡充。 ・三三三タイムの企画・実施。			生徒指導主事 生徒会担当 文化の行事担当
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育						
5 総合評価・ 次年度への展望						